

貝沢井ノ貝戸遺跡

— 道路築造工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 —

2019

高崎市教育委員会
有限会社 高澤考古学研究所

例 言

- 1 本書は、群馬県高崎市貝沢町字オノ貝戸 2099 番地に所在する「貝沢オノ貝戸遺跡」（高崎市遺跡調査番号 720）の発掘調査報告書である。
- 2 調査は、道路築造工事に伴う埋蔵文化財発掘調査として実施した。
- 3 発掘調査から整理作業を経て、報告書刊行に至るまでの一連の作業は、事業者様の費用負担によって行われた。
- 4 発掘調査及び整理作業は、高崎市教育委員会の指導・監理のもと、有限会社 高澤考古学研究所が実施した。
- 5 調査体制は、以下の通りである。
高崎市教育委員会文化財保護課 有限会社 高澤考古学研究所 澤田 拓宏
- 6 発掘調査は、平成 30 年 1 月 5 日から平成 30 年 1 月 18 日までの期間で実施した。調査面積は 70.5m²である。
- 7 本書の編集は、有限会社 高澤考古学研究所の澤田が行った。執筆は 1 を高崎市教育委員会文化財保護課が、それ以外を澤田が行った。
- 8 平面測量は平板を使用し、磁北を基準にした。
- 9 標高は高崎市街区多角点を使用した。
- 10 遺構及び遺物撮影は、澤田が行った。
- 11 石器実測トレース、石材鑑定および所見は、文化財整理こうけんに委託した。
- 12 発掘調査及び整理作業に従事した者は、以下の通りである。（敬称略、50 音順）
小林 貴子・澤田 美枝子・澤田 恵美・田村 睦・円谷 純・畠山弘輝・柳沢 敏子・渡 明秀
- 13 発掘調査により得られた資料及び出土遺物は、一括して高崎市教育委員会に保管してある。

凡 例

- 1 遺構挿入図に使用した方位記号は、磁北を示す。
- 2 遺構挿入図に使用した標高は、高崎市 3 級街区多角点 No. 20A78（標高 91.496m）を基準にした。
- 3 土層注記の色調は、農林省農林水産技術会議事務局（財）日本色彩研究所監修「標準土色帖」を使用した。
- 4 本書で使用した地図は、第 1 図が国土地理院発行数値地図 1/25,000 地形図を、第 2 図は国土地理院発行数値地図 1/2,500（高崎市都市計画基本図）を使用した。
- 5 掲載図の縮尺は、各キャプション及び各図に示した通りである。
- 6 掲載図中に使用した断面図において、遺構部分は太線で表現した。
- 7 掲載図中に使用した断面図において、石を『S』と表現した。
- 8 土層断面観察にて、柱の痕跡が認められたものを本文中で『柱痕』と表現した。
- 9 本書で使用した火山噴出物の記述は、以下の通りである。
As-C 3 世紀後半降下「浅間 C 軽石」
As-B 1108 年（天仁元年）降下「浅間 B 軽石」
As-A 1783 年（天明 3 年）降下「浅間 A 軽石」

目次

例言・凡例・目次	
I 調査に至る経緯	1
II 調査の方法と経過	1
III 遺跡の地理的環境と周辺遺跡	2
IV 基本堆積土層	3
V 調査の成果	5
VI 総括	6
写真図版	
参考文献・抄録	

挿図・挿表目次

第1図	周辺遺跡図 (1/25,000)	2
第2図	遺跡位置図 (1/2,500)	3
第3図	基本堆積土層 柱状図・写真	3
第4図	遺跡全体図 (1/70)	4
第5図	1号周溝墓・1号溝・10号ピット 断面図 (1/40) 1号周溝墓 出土遺物図 (1/3)	6
第6図	1号土坑 断面図 (1/40)	6
第7図	1～9号ピット 断面図 (1/30)	6
第1表	ピット詳細表 (単位cm・+は以上)	5
第2表	1号周溝墓 遺物観察表 (単位cm)	6

写真図版

PL1:調査写真 PL2:調査写真 PL3:調査写真・出土遺物写真

I 調査に至る経緯

平成 29 年 10 月、土地所有者と開発主体者大和ハウス工業株式会社から高崎市貝沢町において計画している土地分譲住宅建設工事に先立つ埋蔵文化財の照会が市教育委員会文化財保護課（以下、市教委と略）にあった。当該地は周辺の埋蔵文化財包蔵地である東貝沢 18 遺跡内に所在するため、工事に際しては協議が必要である旨を回答した。同年 10 月 26 日には、市教委へ埋蔵文化財試掘（確認）調査依頼書が提出され、同年 11 月 26 日に試掘（確認）調査を実施した。その結果、浅間山が 3 世紀末に噴火した時の火山灰を含む黒色土が含まれた溝を確認した。この結果をもとに開発者と市教委で協議したが、現状保存は困難との結論に達し、発掘調査による記録保存の措置を講ずることで合意した。なお遺跡名については「貝沢寺ノ貝戸遺跡」とした。

発掘調査は「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務取扱要項」に順じ、平成 29 年 12 月 19 日に土地所有者・有限会社高澤考古学研究所・市教委での三者協定を締結、また同年 12 月 25 日に土地所有者と民間調査機関有限会社高澤考古学研究所との間で契約も締結し、調査の実施にあたって市教委が指導・監督することとなった。

II 調査の方法と経過

高崎市教育委員会による試掘調査の結果、遺構確認面までは現地表から約 73cm 下であることが確認されている為、平成 30 年 1 月 5 日に重機にて表土を除去し、ジョレンを用い人力にて遺構確認作業を行った。遺構確認作業の結果、試掘調査通り、溝・土坑・ピットが検出された。

検出された遺構は埋没状況を確認する為、土層観察用のベルトを残しながら、掘り下げ作業を行った。検出された遺構および遺物は、写真記録を取得しながら調査を行った。写真は 35mm 小型一眼レフカメラを用い、カラーリバーサル、モノクロームネガの 2 種類のフィルムを使用し、1010 万画素の小型一眼レフデジタルカメラを併用した。平面測量は平板を使用し作成した。全ての遺構の調査が終了した後、全景撮影を行った。その後、基本土層を確認する為に深掘りを行った。平成 30 年 1 月 16 日に高崎市教育委員会の発掘作業完了確認を受け現地調査を終了した。

平成 30 年

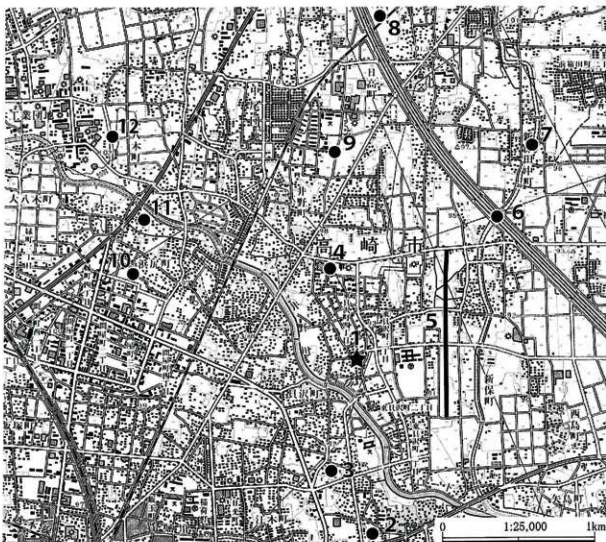
- 1 月 5 日 発掘器材搬入 重機による表土除去作業開始 遺構確認作業開始
- 1 月 9 日 重機による表土除去作業終了 遺構確認作業
- 1 月 11 日 周溝・溝・土坑・ピット検出 各遺構掘り下げ作業開始
- 1 月 15 日 各遺構断面計測作業
- 1 月 16 日 各遺構全景撮影 高崎市教育委員会による発掘作業完了検査
- 1 月 18 日 基本堆積確認の為の深掘り作業および平面測量作業 現場撤収作業 本日に現地調査終了

Ⅲ 遺跡の地理的環境と周辺遺跡

群馬県高崎市は、関東平野の北西端に位置しており、西に浅間山、妙義山、北に広大な扇状地を持つ榛名山、赤城山、そして南西から南方にかけては御荷鉾山系、秩父山系等の山々に囲まれ、南東に広大な関東平野を望むことができる環境にある。貝沢ノ貝戸遺跡は、高崎市街地の北東方向、JR 東日本上越線井野駅から南東へ約 1.3km に位置し、南西約 220m には井野川が流れている。

本遺跡北西側に形成された相馬ヶ原扇状地は、標高 110m 付近にその扇端部があるとされる。榛名山を源にする中小河川によって形成された自然堤防状の微高地と、浸食された谷状低湿地が扇端付近から井野川までの間に発達し、複雑な地形を形成している。遺跡は、この自然堤防状の微高地にあり、標高は約 91.7m である。

周辺では、As-C 軽石降下以前の遺構が多く検出されている。新保遺跡 (6) では方形または不整形円形からなる 14 基の群と、円形を基とする 9 基の周溝墓群が検出されている。また、国指定史跡の日高遺跡 (8)、新保田中村前遺跡 (7)、上大須北宅地遺跡 (2)、貝沢柳町遺跡 (3) においても数基からなる周溝墓群が検出されている。当該期の集落として、新保町遺跡 (5)、新保遺跡、新保田中村前遺跡、浜尻 A 地点遺跡 (11)、浜尻 B 地点遺跡 (10) 等が知られ、低湿地では日高遺跡をはじめ、井野天水遺跡 (4)、中尾村前 VI 遺跡 (9)、新保遺跡、新保田中村前遺跡等で水田遺構や溝等が確認されている。また、小八木遺跡 (12) では、畚と考えられる畚状遺構が検出されている。本遺跡周辺は、As-C 軽石降下以前から活発な人々の活動がみられる地域である。



1. 本遺跡 2. 上大須北宅地遺跡 3. 貝沢柳町遺跡 4. 井野天水遺跡 5. 新保町遺跡 6. 新保遺跡 7. 新保田中村前遺跡 8. 日高遺跡 9. 中尾村前 VI 遺跡 10. 浜尻 B 地点遺跡 11. 浜尻 A 地点遺跡 12. 小八木遺跡

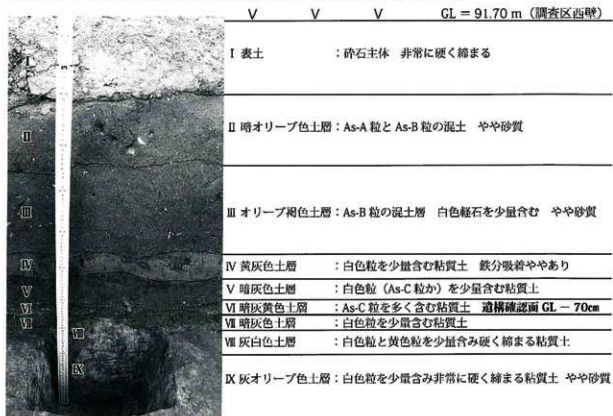
第 1 図 周辺遺跡図 (1/25,000)



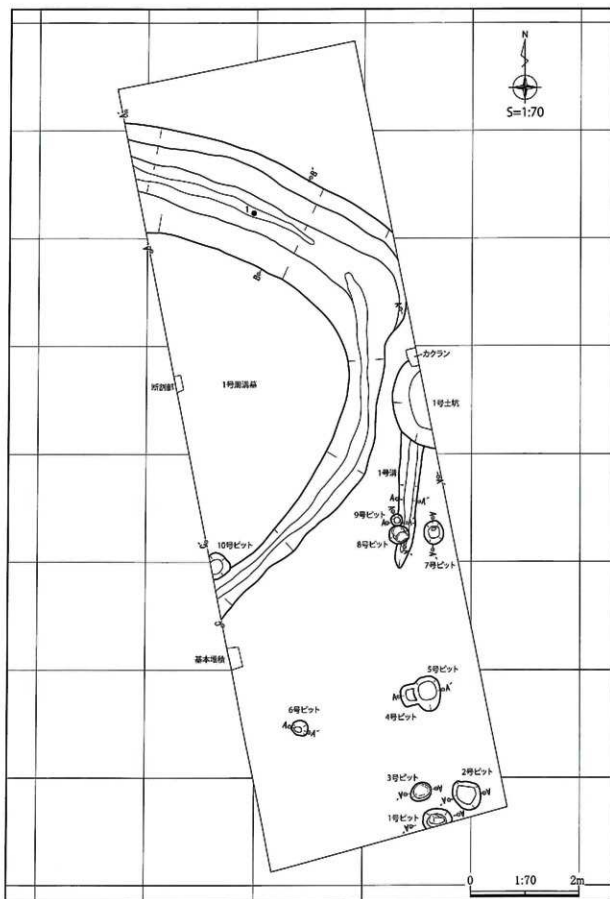
第2図 遺跡位置図 (1/2,500)

IV 基本堆積土層

I層は現表土で碎石を多く含む非常に硬く締まっている。約15cm程堆積し調査区南側では部分的に深い堆積をしている。II層はAs-A粒とAs-B粒の混土層で硬く締まり、III層はAs-B粒を多く含む層で約20～30cmと厚く堆積し、白色軽石を少量含む。II層とIII層はやや砂質である。IV層は灰色の粘質土で調査区全体に約10cm程の厚さで堆積している。V層はAs-C粒と考えられる白色粒および白色軽石を少量含む粘質土である。VI層はAs-C粒を多く含む粘質土で、本層下が遺構確認面である。現地表からは約70cm下である。VII層は粒子の細かい白色粒を僅かに含む粘質土である。VI層とVII層は調査区南西部の一部分のみに堆積が認められた。VIII層は白色粒と黄色粒を僅かに含む粘質土で、硬く締まっている。IX層は白色粒を少量含む、非常に硬く締まる粘質土で、やや砂質である。IV層以下は粘質土でVII層以下は硬く締まる層である。



第3図 基本堆積土層 柱状図・写真



V 調査の成果

発掘調査の結果、周溝墓を1基、溝1条、土坑1基、ビット10基を検出した。1号周溝墓の溝にはAs-C粒が含まれる。東側のおよそ半分の検出で、埋葬施設は確認されなかった。1号溝の覆土にはAs-B粒は含まれず、土坑およびビットの覆土にはAs-B粒が多く含まれる。ビットは調査区の南側に集中して検出された。はっきりとした並びは確認できないが、礎石と考えられる礫が3基のビットで確認され、柱痕も4基で認められる為、掘立柱建物跡の可能性が考えられる。調査区の現況は平坦であるが、旧地表は北から南方向へ緩やかではあるが傾斜している。

1号周溝墓

確認された全体の規模は南北9.40m以上、東西4.75m以上である。周溝は北側にて幅2m、確認面からの深さは約40cmで、南側は幅50cm、確認面からの深さは約15cmである。溝底面の南北での高低差は約20cmで、南側が高い。最下部は基本堆積Ⅹ層を掘り込み、整地等の痕跡は認められない。主体部は確認されなかった。覆土中層から上層にはAs-C粒を多く含む層が堆積し、周溝墓中央から流れ込んでいる様相が伺える（第5図・PL1）。遺物は溝底面よりNo1が出土した。中央付近の西壁にて断削り調査をしたが、基本堆積Ⅹ層とⅩ層の堆積が確認されたのみで、主体部の痕跡および構築等の痕跡は認められなかった（PL2）。

1号溝

調査区東側にて検出された。規模は南北2.45m、幅40cmで、確認面からの深さは約9cmである。1号土坑、8、9号ビットと重複関係にあり、本遺構が一番古い。覆土にはAs-C粒と考えられる白色粒が含まれる。遺物は確認されなかった。南側は不明瞭になり途中で途切れ確認できなくなる。

1号土坑

調査区東側にて検出された。北側が掘削により破壊され、東側が調査区外になる為詳細不明であるが、規模は南北1.85m以上、東西54cm以上である。最下部は調査区外になる為不明であるが、確認された深さは約75cmである。覆土にはAs-B粒が多く含まれる。遺物は、少量の土師器片と小礫が検出された。

ビット

各ビットは調査区南側に集中して検出された。全てのビットの覆土には、As-B粒が含まれる。2、3、7、8号ビットからは底面付近に礫が検出された。7号ビット以外の礫は、礎石と考えられる。また、1、2、3、10号ビットからは柱痕が認められる為、周辺には掘立柱建物跡の存在が示唆される。明確な並びや規則性は不明瞭だが、8号ビットを北西隅に考え、5号ビットを通し1号ビットを直線で結び、これを掘立柱建物跡の西側側面と推測すると南東側の調査区外に本体を求めることができる。10号ビットはこれより若干離れて、調査区西端に単独で存在しているが、柱痕が認められ、しっかりとした掘り込みの為（PL3）、調査区外西側にもビット群が広がっている可能性が推測される。遺物は1、2号ビットから極少量の土師器小破片が検出された。

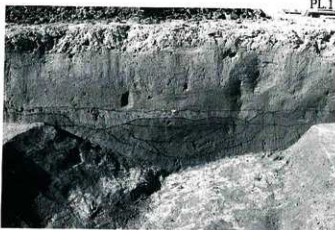
第1表 ビット詳細表（単位cm・+は以上）

No.	平面形状	断面形状	径	長軸	短軸	深さ	重複	断面計測方向	覆土	備考
1	円形	U字	53	—	—	41	—	東～西	As-B粒混土	礎石・柱痕あり
2	円形	U字	55	—	—	38	—	東～西	As-B粒混土	柱痕あり
3	楕円	箱	—	42	33	27	—	東～西	As-B粒混土	礎石・柱痕あり
4	隅丸方形	箱	—	48	24+	21	< 5	西～東	As-B粒混土	
5	楕円形	U字	—	64	48	24	> 4	西～東	As-B粒混土	
6	円形	U字	28	—	—	16	—	東～西	As-B粒混土	
7	楕円形	皿	—	43	36	9	—	北～南	As-B粒混土	小礫あり
8	円形	皿	37	—	—	10	> 1号溝	北～南	As-B粒混土	礎石2石あり
9	円形	皿	21	—	—	5	> 1号溝	西～東	As-B粒混土	
10	不整形円形	箱	47	—	—	47	> 周溝墓	南～北	As-B粒混土	柱痕あり

写真図版



1号円溝墓確認状況 北から



1号円溝墓Aセクション 東から



1号円溝墓Bセクション 南東から



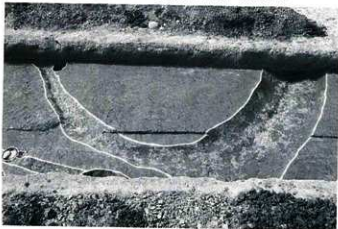
1号円溝墓Cセクション 東から



1号円溝墓 No.1遺物出土状況 南東から



1号円溝墓全景およびA・Cセクション 北東から



1号円溝墓全景 東から



1号円溝墓全景 南東から



1号周溝墓中央部 東から



1号周溝墓中央付近 西壁断削セッション 東から



1号溝Aセッション 南から



1号溝および7・8・9ピット全景 西から



1号土坑Aセッションおよび全景 北西から



1号ピットAセッション 北から



2号ピットAセッション 北から



3号ピットAセッション 北から



10号ピットAセクション 東から



3号ピット全景 上が北



8・9号ピット全景 西から



1・2・3号ピット全景 北西から



全ピット全景 東から



調査区全景 南から



調査区全景 北から



1

1号周溝墓出土遺物

参考文献

- 小野 和之・横倉 興一 1979 『小八木遺跡調査報告書 (1)』 高崎市教育委員会
- 久保 泰博・萩原 幹夫 1986 『貝沢柳町遺跡』 高崎市
- 群馬県史編さん委員会 1990 『群馬県史 通史編 1 原始古代 I』 群馬県
- 相京 健史・小島 敦子 1990 『新保田中村前遺跡 I』 (財) 群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 高崎市教育委員会 1998 『高崎市遺跡分布図』 高崎市内遺跡詳細分布調査報告書 高崎市教育委員会
- 高崎市市史編さん委員会 1999 『新編 高崎市史 資料編 1 原始古代 I』 高崎市
- 高崎市市史編さん委員会 2000 『新編 高崎市史 資料編 2 原始古代 II』 高崎市
- 小宮 将夫・萩原 研一 2017 『第 63 回企画展 方形周溝墓の世界』 岩宿博物館

報告書抄録

フリガナ	カイザワイノカイド イセキ
書名	貝沢伊ノ貝戸遺跡
副書名	道路築造工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ名	高崎市文化財調査報告書
シリーズ番号	第 465 集
編著者名	澤田 福宏
編集機関	有限会社 高澤考古学研究所
編集機関住所	〒 370-0005 群馬県高崎市正観寺町 665 番地 8
発行機関	高崎市教育委員会 文化財保護課
発行年月日	平成 31 (2019) 年 3 月 31 日

所収遺跡名	貝沢伊ノ貝戸遺跡						
所収遺跡所在地	群馬県高崎市貝沢町字井ノ貝戸 2099 番地						
市町村コード	遺跡番号	北 緯	東 経	調査開始	調査終了	調査面積	調査原因
102020	720	36° 34' 75"	139° 03' 00"	20180105	20180120	70.5㎡	道路築造工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
貝沢伊ノ貝戸遺跡	墓跡	弥生時代末～ 古墳時代初頃か	周溝墓 (方形と推測) 溝	石器	As-C 軽石降下以前の 周溝墓
	その他	As-B 降下以降	土坑・ピット (欄立柱建物跡か)		

— 貝沢井ノ貝戸遺跡 —

高崎市文化財調査報告書第 465 集

平成 31 年 3 月 25 日 印刷

平成 31 年 3 月 31 日 発行

発行 高崎市教育委員会

文化財保護課

編集 有限会社 高澤考古学研究所

印刷 上武印刷株式会社

